

会 議 記 録			
会議の名称	第5次亀岡市総合計画 検討特別委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 鈴木
日 時	令和2年10月21日（水曜日）	開 議 午後 1 時 3 0 分	
		閉 議 午後 2 時 5 9 分	
出席委員	◎木曾 ○平本 三上 富谷 赤坂 小川 小松 菱田 <齊藤議長>		
執行機関出席者	【企画管理部】浦部長 [企画調整課] 田中課長、高木副課長、太田企画推進係長、宮本主任		
事務局出席者	山内事務局長、井上次長、鈴木議事調査係長		
傍聴	市民1名	報道関係者0名	議員2名（木村、奥野）

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

[木曾委員長 開議]

[事務局長 説明]

[執行部 入室]

1 質疑項目について

(1) 基本構想

[企画管理部長 あいさつ]

No. 1

[企画調整課長 説明]

<木曾委員長>

第4次亀岡市総合計画の総括は、第5次亀岡市総合計画に盛り込んでいると説明されたが、その理解でよいのか。

<企画調整課長>

具体的に書き込んでいる訳ではなく、基本計画の中に現状と課題を記載している。進行管理を行っており、それを踏まえながら記載しているところである。

<三上委員>

SDGs とかめおかプラスチックごみゼロ宣言のゴールは2030年であり、その整合を絡めて記載してはどうかという意見である。亀岡市独自のリーディング事業として注目されており、触れられてもよいと考えるがどうか。

<企画調整課長>

かめおかプラスチックごみゼロ宣言については、基本構想の13ページ「世界に誇れる環境先進都市」の記述の中で記載している。また、SDGsの2030年のゴールにマッチさせた記載については、書き込めないことはないが、結論に至るまでが長くなり、総合計画自体は亀岡市民の福祉増進のための行政施策の指針であることから、記載については控えさせていただいたところである。

<三上委員>

SDGsの未来都市に選定されたことは記載されるのか。

<企画調整課長>

12ページの「目指す都市像」の中に、「SDGs未来都市」として記載している。

<三上委員>

1番前に記載されてもよいと思う。亀岡市を含めた地球規模の課題がある中に、環境破壊の問題が出てこないのは残念だと思う。「SDGs未来都市」の記載があれば、リーディングシティとしての取組も導きやすいと思うがどうか。

<企画調整課長>

第4次亀岡市総合計画には、計画の目的等を序章に入れていた。第5次亀岡市総合計画の中では、第2章、第3章を追加し、災害や地球環境問題等、亀岡市を取り巻く世界的な動きを踏まえ、今後の10年を考えて記載している。第3章の「まちづくりの進展」に、第4次亀岡市総合計画の中で進展があったことを記載する。このような構成にしており、計画の目的が第2章と重複してくるので、現状のままの記載にしたいと考える。

<赤坂委員>

前よりも分かりやすくなったと思うので十分である。

No. 5

[企画調整課長 説明]

<小松委員>

日本経済のくくりで記載しているのはよいが、全体のところで亀岡市の課題を記載する方がよいのではないか。課題としては、人口減少問題だけに絞るのか。

<企画調整課長>

大きな課題として、人口減少問題を記載している。人口減少以外の大きな視点としては、本市のまちづくりに影響があることを取り上げ、それを受けて亀岡市としての課題というまとめ方にしている。小松委員の言われている、地域に落とし込んだまとめ方にしたいと考えている。

<小松委員>

どこの市町村であっても同じようなことを落とし込まれている。亀岡市の総合計画であり、もう少し具体的に、独特の課題に触れながら落とし込めばよいのではないか。構想であり全体的な考え方の記載でよいが、基本計画の課題について俯瞰的に書けないのか。

<木曾委員長>

具体的に素案に盛り込みたいと考えており、そのような質疑をお願いしたい。

<小松委員>

計画の中に課題があると思うので、総合的なところにも課題を入れることはできないのか。

<企画調整課長>

基本構想の流れの中で、第3部は8章の構成にしている。そこで課題を踏まえ、今後のまちづくりをどのように進めていくかについて記載している。具体的な施策に結びつけるのを、基本計画の節ごとに細かく振り分けて、現

状と課題として出している。地域の課題はたくさんあるので、それを1つにまとめて記載するのは難しいと考える。

<小松委員>

このような課題があるために、この施策を進めていくということを記載できないのか。

<企画調整課長>

小松委員の意見をどのように反映できるか少し考えていきたい。いただいた意見については、総合計画審議会で諮りたい。

No. 8

[企画調整課長 説明]

<三上委員>

「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の長期的展望に基づき書かれていることは理解する。これは、2030年、または2040年にこのようになっていけば、人口減少に歯止めがかかるということなのか。2040年に2.07にするという見通しであれば、国全体の合計特殊出生率が上がるということなのか。私は努力しなければ上がらないと思っている。

<企画調整課長>

国は、安定して人口を保つために、合計特殊出生率を2.07に引き上げなければならないとしている。その中で、この合計特殊出生率を上げていくために、総合戦略を策定し、努力していくというのが自治体の流れである。人口見通しであり、亀岡市の合計特殊出生率が1.8になるものではない。国の基準に達するために、1.8を目標にすることが自治体としての方向性である。人口見通しとして、数値が改善し1.8に達した場合に、81,000人程度になることを示している。このままであれば、見通しとしては77,000人程度になるので、亀岡市の政策努力により合計特殊出生率を上げていくことを記載したものである。今は転出超過になっており、それを改善していくことにより、人口減少に歯止めをかける必要があることを共有するために「見通し」という表現にしている。

<三上委員>

これを読まれた市民は、このままであれば77,000人までいける、1.8まで向上するという印象を受けるのではないか。1.8まで引き上げる努力をすれば81,000人になるという書き方をしないといけないのではないか。一定の努力をするということを書かなければいけないと考える。

<企画調整課長>

この記載については、総合計画審議会においても議論したところである。1.8にした根拠としては、参考資料2の図表に亀岡市の人口シミュレーションを記載している。いかに誤解を招かない表現とするのか、検討させていただきたい。

<三上委員>

人口見通しであり、合計特殊出生率を上げる施策を記載する必要はないが、それなりに施策を実施しなければならないと考える。

<木曾委員長>

今日の新聞に、コロナ禍において、人口動態が厳しくなるという記事が出て

いた。来年度の合計特殊出生率が戦後最低になるということが書かれている。これからはこのようなことが想定されるが、このまま1.8とするのか。

<企画調整課長>

合計特殊出生率が大幅に下がるという記事に驚いている。1.32が現状であり、1.8という数字は厳しいと考えるが、仮定値としては、このままとさせていただきたいと考えている。1.8に近づけていくことが政策目標であり、理解いただきたい。

<木曾委員長>

国の長期展望では2.07とする中で、1.8という想定である。しかし、現実はかなり厳しい状況にある。このままの状態では不安定になるので、市の施策を考えていく中において、人口想定は非常に大事である。ここを間違えるといろいろな施策に影響するので、統計にこだわらず、亀岡市の状況を見て考えていく必要があると思う。このことを総合計画審議会の中でも検討してはどうか。

<企画管理部長>

平成27年の国勢調査を基にしていることもある。今後、令和2年の国勢調査の数字も出てくる。計画を策定する上で、オフィシャルの数字を基に算定せざるを得なかった状況があり、1.8をどのように見るかについては、改めて議論いただく。基本計画に関わることであれば、随時見直しやすいが、基本構想の10年間のことであり、慎重に検討していきたい。

<三上委員>

参考資料の3ページ下段の赤枠の内容は、基本構想の10ページに入ることになるのか。

<企画調整課長>

意見をいただいていたので、その説明のために資料に入れているが、最終的には記載しない。

<三上委員>

努力目標として1.8を掲げ、見通しを持ったことを記載した方がよいと思う。

<企画調整課長>

できるだけ分かりやすくなるように記載したい。用語解説集を作成することとしており、合計特殊出生率の説明を補足することも検討していきたい。

<木曾委員長>

社会情勢が大きく変化する場合、人口を見直さざるを得ないことも含め、対応をお願いしたい。

No. 12

[企画調整課長 説明]

<富谷委員>

「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」はキャッチフレーズとしてイメージしやすいが、何をリードしていくのか。また、何が人と時代に選ばれるのかが分かりにくい。第4次亀岡市総合計画には具体的に記載されていた。追記した方が分かりやすいと考えるがどうか。

<企画管理部長>

「人と時代に選ばれる」とは、時代をリードする新たな取組に挑戦することにより、その成果がまちの魅力を高めていき、全国・世界に発信していくことで、亀岡市はよいまちであり、住んでみよう、行ってみようという人から選ばれるということである。「リーディングシティ亀岡」に関しては、関西初の生涯学習都市宣言や、日本初のセーフコミュニティ認証都市、環境先進都市の取組など、全国に先駆けたチャレンジをするまちであったことや、今後も時代をリードする新たな取組に挑戦する都市を目指すことであり、このままでご理解いただきたい。

<富谷委員>

追記できないということか。

<企画管理部長>

そのとおりである。

<三上委員>

パブリックコメントにもリーディングシティの意見があった。策定部会での意見はどのようなものであったのか。

<企画管理部長>

総合計画審議会では、おおむね良とされており、分かりにくいという意見や反対の意見はなかった。市の内部で協議している際に、都市像は総合計画のキャッチフレーズとなるものであり、どの都市か分からないようなものは避けようという意見があった。亀岡市ならではの都市像にしようというものであり、これからも全国に先駆けた新たなチャレンジをしていこうという意味として、リーディングシティを使っている。

<木曾委員長>

難しい「リーディングシティ亀岡」とするよりも、「日本一の都市を目指す亀岡」とすればよかったのではないか。より分かりやすいものにしていく可能性はあるのか。

<企画管理部長>

「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」だけを見てみると、分かりにくいという指摘もあるかもしれないが、目指す都市像の意図にあるように、ご理解いただきたい。また、このキャッチフレーズが浸透するよう取り組んでいきたいと考える。現段階で修正することは考えていない。

<木曾委員長>

できるだけ分かりやすい文言にすべきという意見である。日本一を目指して頑張っていることが「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」になるのではないか。

<企画管理部長>

特別委員会で意見をいただいたので、改めて総合計画審議会に諮っていきたい。

<三上委員>

一歩先に行くまちということだと思うが、一歩先に行くことが、本当に市民の幸せのためになるのか。もう一度検討いただきたい。

No. 24

[企画調整課長 説明]

<小松委員>

市民参画と協働は、計画を作成する上で施策と基本方針の中に限定されたものではないのか。

<企画管理部長>

第3部の施策の基本方針の各ページは、各章の概要を記載するページであり、詳細に記載するものではない。市民参画の視点が少ないということであるが、例えば21ページの第1では、「市民と行政がパートナーシップと適切な役割分担のもと、協力し合いながら人口減少や高齢化などに起因する地域課題の解決に向けて取り組み、互いに成長していく協働のまちづくりを進めます。」と記載している。また、22ページには「安全対策を市民・事業者との協働によって進めます。」、23ページには「地域の主体的な健康づくりへの支援」等、可能な限り市民との協働による視点の内容を入れている。基本計画には、第8章第1節に市政への市民参画の推進の考え方を盛り込んでいる。

<赤坂委員>

書いてあることが分かりにくい。見る人に分かってもらえるように作らないといけない。リーディングシティの記載については、リーディングできるように頑張るという記載であれば分かるが全体的に軽い。誰が見ても分かるように作り直した方がよいのではないか。

<企画管理部長>

21ページからの記述に関しては概要としてのものである。詳細については、基本計画に詳しく記載しているものである。

<赤坂委員>

基本計画に書いてあるのは分かるが、ここでも分かるような図の仕組みを書いてはどうか。

<企画管理部長>

反問する。図の仕組みとはどういうものであるのか。

<赤坂委員>

分かりにくい。もう少しかみ砕いて分かりやすくしてほしい。

<企画管理部長>

第1章から第8章まで分かりやすく1枚の紙にまとめると、図や文字が小さくなる。また、SDGsや重点テーマとの関係性が分かる表を別に添付しようと考えている。

<三上委員>

基本方針のインデックスでしかないのではないか。

<企画管理部長>

基本計画の骨組みを案内したものである。

<三上委員>

基本計画にも市民参画を記載されているところもある。結局は、審議会への参加やパブリックコメントだけである。本当に多くの市民の現状を知り、アイデアを取り入れる努力が必要ではないか。それぞれに市民の声を聞いたことを書く必要はないが、冒頭で計画は市の職員だけがやるものではない、市民の皆さんと一緒に考えていきたいという思いがあればよいと思った。議論いただければよいと考える。

<企画管理部長>

基本計画の第1章第3節の「コミュニティ・市民協働・移住定住」においては、コミュニティ推進員制度を活用して、自治会や各種団体との連携を推進している。また、市民協働活動の促進として「暮らしの中で感じる気づきなどについて話し合い、共有する場づくりにより、地域課題の掘り起こしを推進します。」という具体的施策も記載しており、市民や地域へ入っていかないと取り組めないと考えている。信頼関係を築くことが大切であり、各部署の職員が窓口となり、それぞれの業務を進める中で取り組んでいかなければならないと考えている。

No. 29

[企画調整課長 説明]

(質疑なし)

2 その他

(なし)

<木曾委員長>

以上で特別委員会を散会する。

～散会 14:59